



濱田 淳

はじめての地デジ・ データ放送

第7回 自作したデータ放送画面をテレビに映す

ご購入はこちら

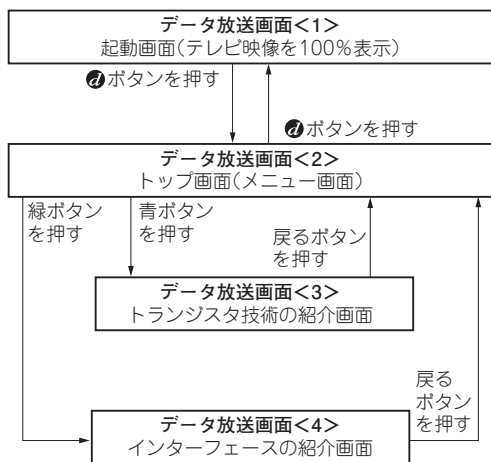


図1 今回のやること…制作したBMLが正しい表示/動作をするか検証する

本連載では、CQ出版社の雑誌を紹介するデータ放送の画面を一から作成してテレビで見られるようにします。

前回(第6回、2015年7月号)までで放送向けHTMLライク言語BMLによるデータ放送画面の制作がひととおり完了しました。今回は、制作したBMLによって、正しくテレビに表示されるか、正しく動作するかどうかを検証します(図1)。(編集部)

ステップ5： テレビで正しく動作するか検証する

今まではデータ放送の制作過程を順番に説明してきました。今回は制作したBMLを検証する方法について説明します。

検証では、BMLで記述したウェブ・ページが正しくテレビに表示されるかどうか、レイアウトが間違っていないか、色や文字が間違っていないか、色やスクリプト関数によるリモコンのボタン操作やそのほかの機能が正しく動作するかどうかなど、さまざまな動作を検証する必要があります。

● 検証するのは結構たいへん!

データ放送は、いわゆる放送の一つです。つまり、不特定の受信者に向けて電波を送信するので、テレビの種類や製造メーカーなど、受信環境が個々の視聴者によって異なります。このような放送の性質があるため、データ放送の検証は非常に難しいです。

▶ BMLをRF信号にして検証する必要がある

最終的には放送と同じRF信号を実際のテレビに入力して検証を行います。ここが難しいところです。

▶ 全種類の地デジ・テレビで動く必要がある

また、一口にテレビと言っても、さまざまなメーカーがテレビを製造しています。国内だけでなく、海外製も含めて、データ放送に対応している全てのテレビで動作する必要があります。ここにも難しさがあります。

検証工程

● 本番環境で確認するのが重要だけど…パソコン上でも疑似的に確認できる!

HTMLで記述したホームページであれば、パソコン上のウェブ・ブラウザで動作を確認すれば検証できます。それに対しBMLで記述したデータ放送画面は、テレビ上のBMLブラウザで動作を確認します。

ただし、ある程度であれば疑似的にパソコン上でBMLを動作させる業務用アプリケーションもありますので、テレビなしでも検証できます。そのため、データ放送画面の検証は、次の2段階で実施できます。

ステップ1…パソコンで疑似動作検証

ステップ2…テレビでの動作検証

ステップ1の疑似検証では、パソコン上でのエミュレートによる簡易的な検証を行います。ステップ2のテレビでの検証では、実際の放送と同じ環境で本格的な検証を行います。

● ステップ1…パソコン上で疑似動作を検証

パソコン上で動作するBMLブラウザを使用した疑似検証を行います。